

ささづか こふん
笹塚古墳 ■ D・5



笹塚古墳は、前方部を西に向けて築かれた前方後円墳で、全長が約100mある市内で最も大きな古墳です。古墳の周りをめぐる周溝は、現在水田になっていますが、畦道の様子から盾形であったことがわかります。墳丘の周辺から円筒埴輪や土師器などが出土しています。

本格的な前方後円墳としては、県内でも比較的早い時期に築かれたもので、古墳文化を知る上で重要な古墳です。

【県指定史跡】

いなり こふんぐん
稲荷古墳群 ■ B・2



稲荷古墳群は、姿川右岸の丘陵上にあり前方後円墳1基、円墳3基からなる古墳群です。

発掘調査の結果、前方後円墳の横穴式石室から鉄刀等が発見され、墳丘からは埴輪が見つかりました。

6世紀後半から7世紀にかけて築造された古墳群であると考えられます。

【市指定史跡】

しもぐりおつか こふん
下栗大塚古墳 ■ B・5



下栗大塚古墳は、低地に築かれた直径約44mの円墳です。墳丘は二段になっており、中段に幅4～5mの平坦面がめぐっています。

埋葬施設は不明ですが、墳丘南側に横穴式石室がある可能性が高いと思われます。大型の円墳であり、埴輪が確認されていないことから、古墳時代終末期（7世紀）に築かれたものと考えられます。

【市指定史跡】

かみこうめし もばらんが いせき
上神主・茂原官衙遺跡 ■ E・4

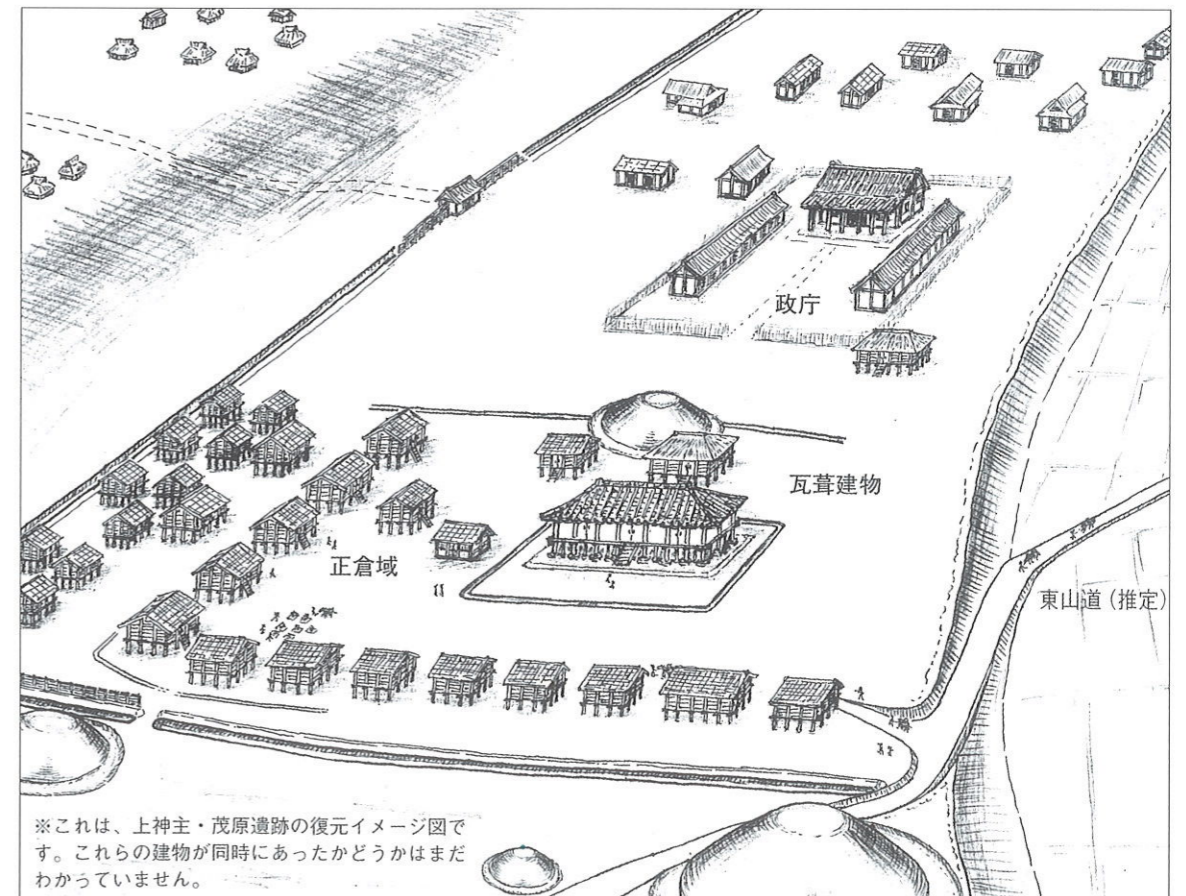
宇都宮市と上三川町にまたがる奈良時代の遺跡です。人名を記した瓦が出土することから、長い間寺院跡と考えられ、「上神主廃寺」または「茂原廃寺」と呼ばれてきました。

発掘調査によって、「政庁」と考えられる「コ」の字状に配置された建物や、当時としては珍しい屋根を瓦で葺いた大きな建物、「正倉」と思われる整然と並んだ多数の倉庫があったことが判明し、寺院跡ではなく、古代の河内郡を治めていた役所「河内郡衙」の跡である可能性が高くなりました。また、遺跡のすぐそばを「東山道」という当時の幹線道路が通じていたことも確認されました。このように、古代の地方政治を考えるうえで重要な遺跡であることがわかってきたのです。

【国指定史跡】



政庁跡（北から）



※これは、上神主・茂原遺跡の復元イメージ図です。これらの建物が同時にあったかどうかはまだわかりません。

上神主・茂原官衙遺跡の復元イメージ図